

2018年3月期（第118期）
（2017年4月1日～2018年3月31日）

芦森グループ決算説明資料

連結業績は、売上高 56,714百万円、
営業利益 1,879百万円、経常利益 1,946百万円、
親会社株主に帰属する当期純利益 457百万円となりました。

2018. 5. 11.

芦森工業株式会社

**1. 2018年3月期（第118期）実績
および
2019年3月期（第119期）予想**

2018年3月期業績は前期比で増収、営業・経常利益ベースで増益

	2017年3月期 実績 (百万円)	2018年3月期 実績 (百万円)	前期比	
			(百万円)	増減 (%)
売上高	50,331	56,714	6,383	12.7%
営業利益	1,510	1,879	369	24.4%
(営業利益率)	3.0%	3.3%	0.3ポイント	-
経常利益	1,362	1,946	584	42.9%
特別損益	185	▲ 437	▲ 623	-
税金等調整前 当期純利益	1,547	1,508	▲ 39	▲ 2.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,019	457	▲ 561	▲ 55.1%

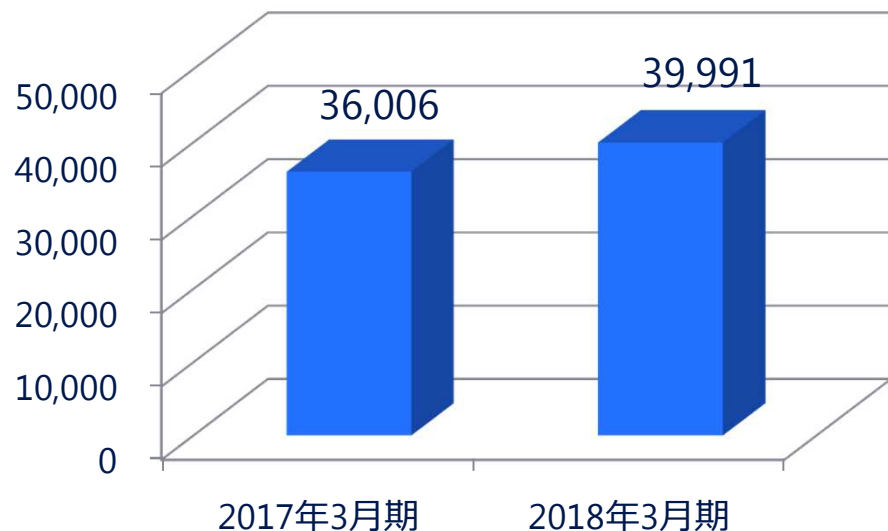
増収増益の主な要因

- ・自動車安全部品事業におけるエアバッグの好調推移や、機能製品事業におけるオールセーフ(株)の通年連結が寄与し、売上高・営業利益は増収増益となった。
- ・為替差損益が前期比で大幅に改善したため、経常利益も増益となった。
- ・本社ビルの譲渡に伴う特別損失(4億67百万円)、および繰延税金資産の取り崩しに伴う法人税等調整額(3億80百万円)を計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純利益は減益となった。

		2017年3月期 実績 (百万円)	2018年3月期 実績 (百万円)	前期比	
				(百万円)	増減(%)
自動車 安全部品 事業	売上高	36,006	39,991	3,984	11.1%
	営業利益	1,172	1,165	▲ 6	▲0.6%
	(営業利益率)	3.3%	2.9%	▲0.3ポイント	-
機能製品 事業	売上高	14,317	16,716	2,398	16.7%
	営業利益	1,553	2,005	452	29.1%
	(営業利益率)	10.8%	12.0%	1.2ポイント	-
不動産収入、 本社経費他	売上高	7	7	0	0.9%
	営業利益	▲1,214	▲1,291	▲76	-
合 計	売上高	50,331	56,714	6,383	12.7%
	営業利益	1,510	1,879	369	24.4%
	(営業利益率)	3.0%	3.3%	0.3ポイント	-

売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



2018年3月期

売上高 (前期比 +11.1%)

営業利益 (前期比 ▲ 0.6%)

・シートベルト

韓国、中国の現地法人において売上が減少したものの、タイ、インドの現地法人が順調に推移し、売上が増加。

・エアバッグ

国内において受注車種の販売が好調に推移したことや、韓国の現地法人において現地カーメーカー向け新規受注品の量産が開始し、売上が大幅に増加。

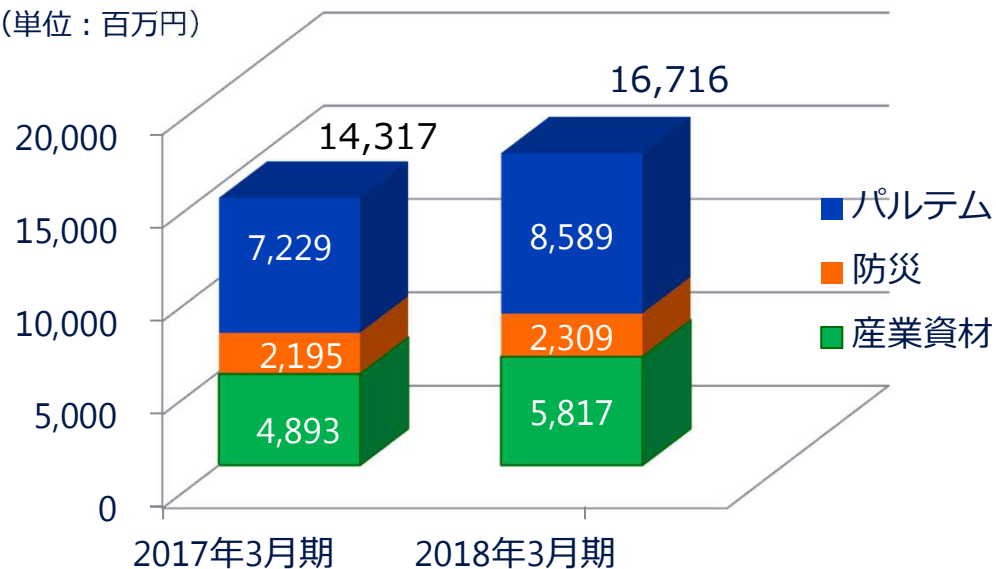
・内装品その他

国内・タイの現地法人において伸び悩み、売上が減少。

上記の結果、当事業の売上は増加。損益面では、中国の現地法人における販売価格低減による利益率の低下や、メキシコの現地法人においても受注車種の減産などが影響し、若干の減益。

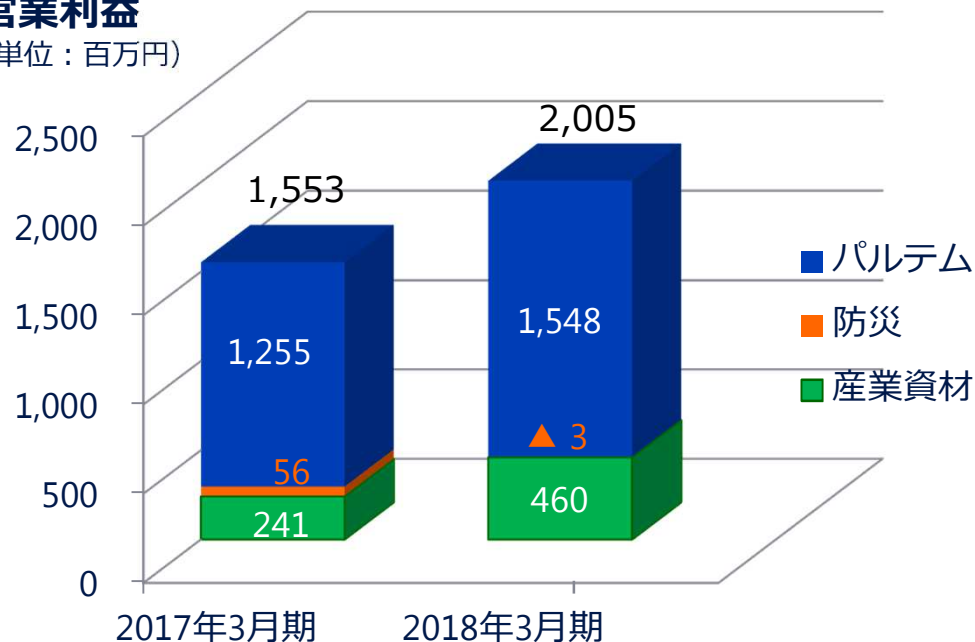
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



2018年3月期

売上高 (前期比 +16.7%)

営業利益 (前期比 +29.1%)

・ パルテム関連

ライフライン（下水道・上水道・ガス等）の管更生分野において特に下水道が伸長したほか、農業用水、上水道分野の受注も好調に推移し、売上は大幅に増加、損益面でも増益。

・ 防災関連

消防用ホースの年度初めの物件数が少なく、大口径送水ホースも需要の一巡やメンテナンス物件などの先送りもあり、売上はやや増加したものの損益面では減益。

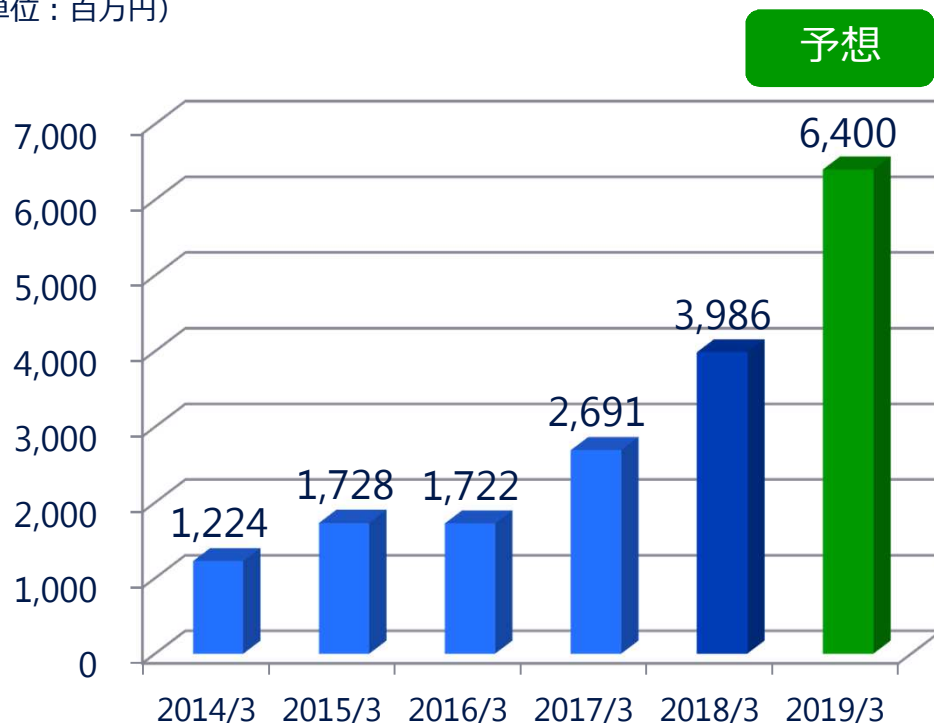
・ 産業資材関連

ロープの売上が減少したが、物流省力化システム関連が好調で、昨年度連結子会社化したオールセーフ(株)の業績も寄与した結果、売上は増加、損益面でも増益。

※パルテム(PALTEM)は、ライフライン(上下水道・ガス等)の管更生事業 Pipeline Automatic Lining system の略称。

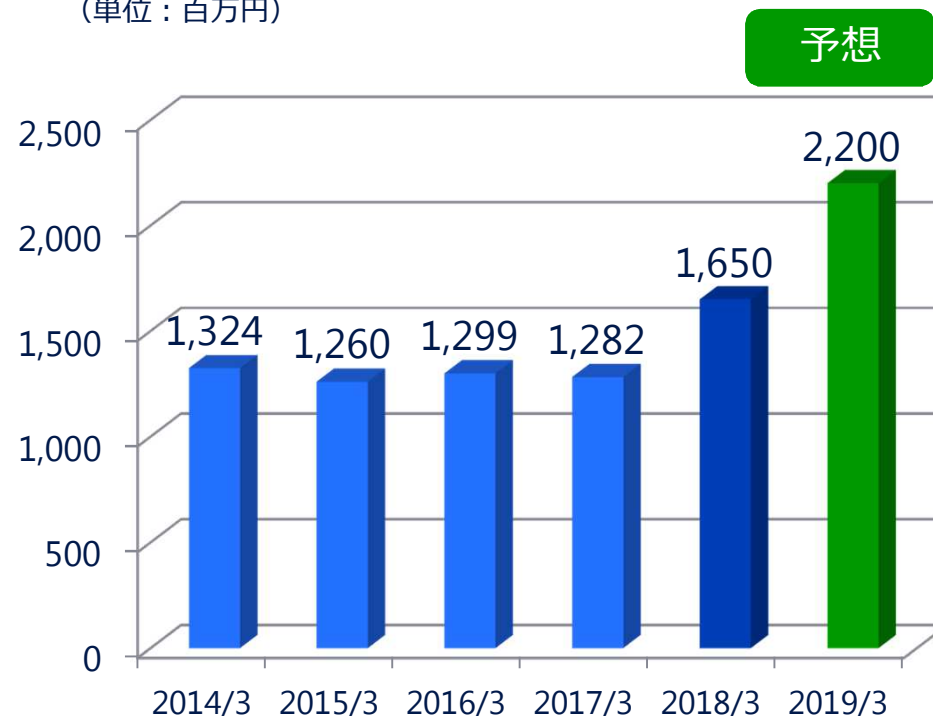
設備投資の推移

(単位：百万円)



減価償却費の推移

(単位：百万円)



<設備投資について>

2018年3月期の設備投資は合計約 40 億円であった。

(内訳は、メキシコ現地法人第二工場建設等により、自動車安全部品事業 約 34 億円、機能製品事業 約 4 億円、その他 約 1 億円)

2019年3月期の設備投資は合計約 64 億円となる見込み。

(内訳は、自動車安全部品事業 約 49 億円、機能製品事業 約 9 億円、その他 約 6 億円)

主な投資内容は下記の通り。

- ・ 芦森工業山口(株) 第三工場建設 約 10 億円 (総額 約19億円の内、2019年3月期投資分)
- ・ 自動車安全部品事業 新規受注および内製化等に伴う機械装置 約 20 億円

(単位：百万円)	2017年3月期末	2018年3月期末	前期末比	
流動資産	25,230	27,629	2,399	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)柴田工業の株式取得により、連結資産・負債が増加。 ・芦森エンジニアリング(株)の売上増により、完成工事未収入金（流動資産）が増加。 ・本社ビルを譲渡したが、海外グループ会社の設備投資等のため、固定資産は増加。 ・投資に伴う資金需要を社債発行・借入により対応し、有利子負債が増加。
固定資産	15,682	16,649	966	
資産合計	40,913	44,278	3,365	
有利子負債	11,562	12,442	880	
その他負債	15,026	17,232	2,206	
負債合計	26,589	29,675	3,086	
資本金	8,388	8,388	0	
資本剰余金	1,632	1,633	0	
利益剰余金	4,143	4,419	275	
自己株式	▲ 11	▲ 179	▲ 167	
その他の包括利益累計額	142	320	177	
新株予約権	-	5	5	
非支配株主持分	26	15	▲ 11	
純資産の部合計	14,323	14,603	279	
負債及び純資産の部合計	40,913	44,278	3,365	
自己資本比率	34.9%	33.0%	▲2.0ポイント	

	2017年3月期 実績 (百万円)	2018年3月期 実績 (百万円)	前期比 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,930	1,917	▲ 12
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3,673	▲ 2,914	759
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,956	282	▲ 1,673
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 136	5	141
現金及び現金同等物の増減額 (▲は減少)	76	▲ 708	▲ 785
現金及び現金同等物の期末残高	3,219	2,511	▲ 708

- ・「営業活動によるキャッシュ・フロー」
売上債権が増加したものの、減価償却費等も増加したため、前期並みとなった。
- ・「投資活動によるキャッシュ・フロー」
設備投資が引続き増加したものの、本社ビルの譲渡により、前期比で改善した。
- ・「財務活動によるキャッシュ・フロー」
投資に伴う資金需要が前期比で減少し、新規借入を抑制したため、前期比では縮小した。

2019年3月期（第119期）は前期比増収増益の見込み

	2018年3月期 実績 (百万円)	2019年3月期 予想 (百万円)	前期比	
			(百万円)	増減 (%)
売上高	56,714	61,500	4,785	8.4%
営業利益	1,879	2,500	620	33.0%
（営業利益率）	3.3%	4.1%	0.8ポイント	-
経常利益	1,946	2,400	453	23.3%
特別損益	▲ 437	-	437	-
親会社株主に 帰属する 当期純利益	457	1,500	1,042	228.0%

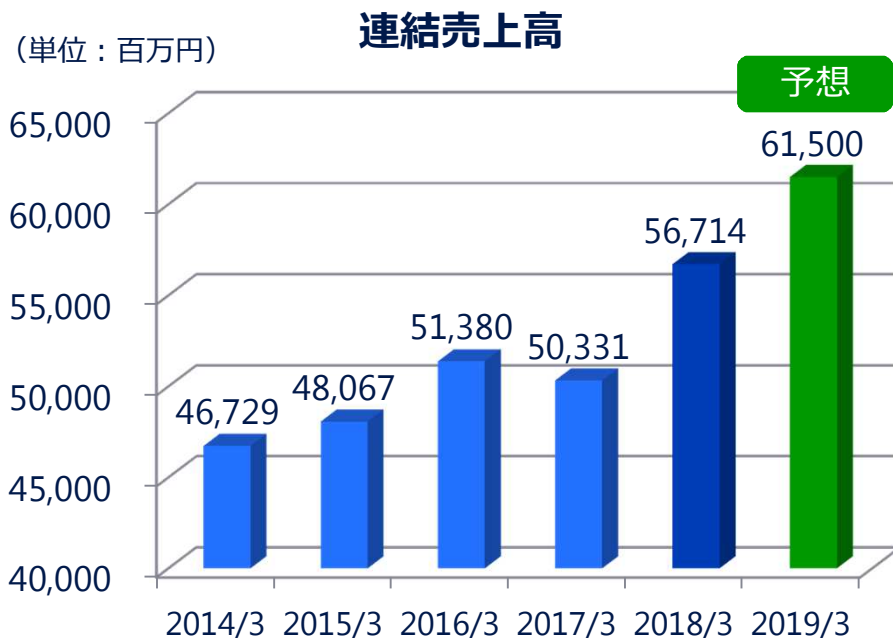
想定為替レート： 110円/US\$, 130円/€

- 第119期は「第117期～第119期（2017年3月期～2019年3月期）中期経営計画」の3年目。売上高・営業利益ともに、中期計画比で5億円の未達となる見込み。しかし、前期比では自動車安全部品事業、機能製品事業とも増収増益となり、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は過去最高を更新する見込み。

		2018年3月期 実績 (百万円)	2019年3月期 予想 (百万円)	前期比	
				(百万円)	増減(%)
自動車 安全部品 事業	売上高	39,991	43,100	3,108	7.8%
	営業利益	1,165	1,600	434	37.3%
	(営業利益率)	2.9%	3.7%	0.8ポイント	-
機能製品 事業	売上高	16,716	18,400	1,683	10.1%
	営業利益	2,005	2,250	244	12.2%
	(営業利益率)	12.0%	12.2%	0.2ポイント	-
不動産収入、 本社経費他	売上高	7	5	▲ 2	▲ 29.8%
	営業利益	▲ 1,291	▲ 1,350	▲ 58	4.5%
合 計	売上高	56,714	61,500	4,785	8.4%
	営業利益	1,879	2,500	620	33.0%
	(営業利益率)	3.3%	4.1%	0.8ポイント	-

本社経費は前期比増加の見込み。

- ・ 研究開発の強化に伴う経費増（試験研究費や関連設備の減価償却費）
- ・ ITシステム再構築費用（業務効率化、将来の運用コスト低減、セキュリティ向上のための初期費用）



<2018年3月期について>

・自動車安全部品事業におけるエアバッグの好調、機能製品事業における下記2社の連結が寄与し、売上高・営業利益は増収増益となった。

オールセーフ(株)：

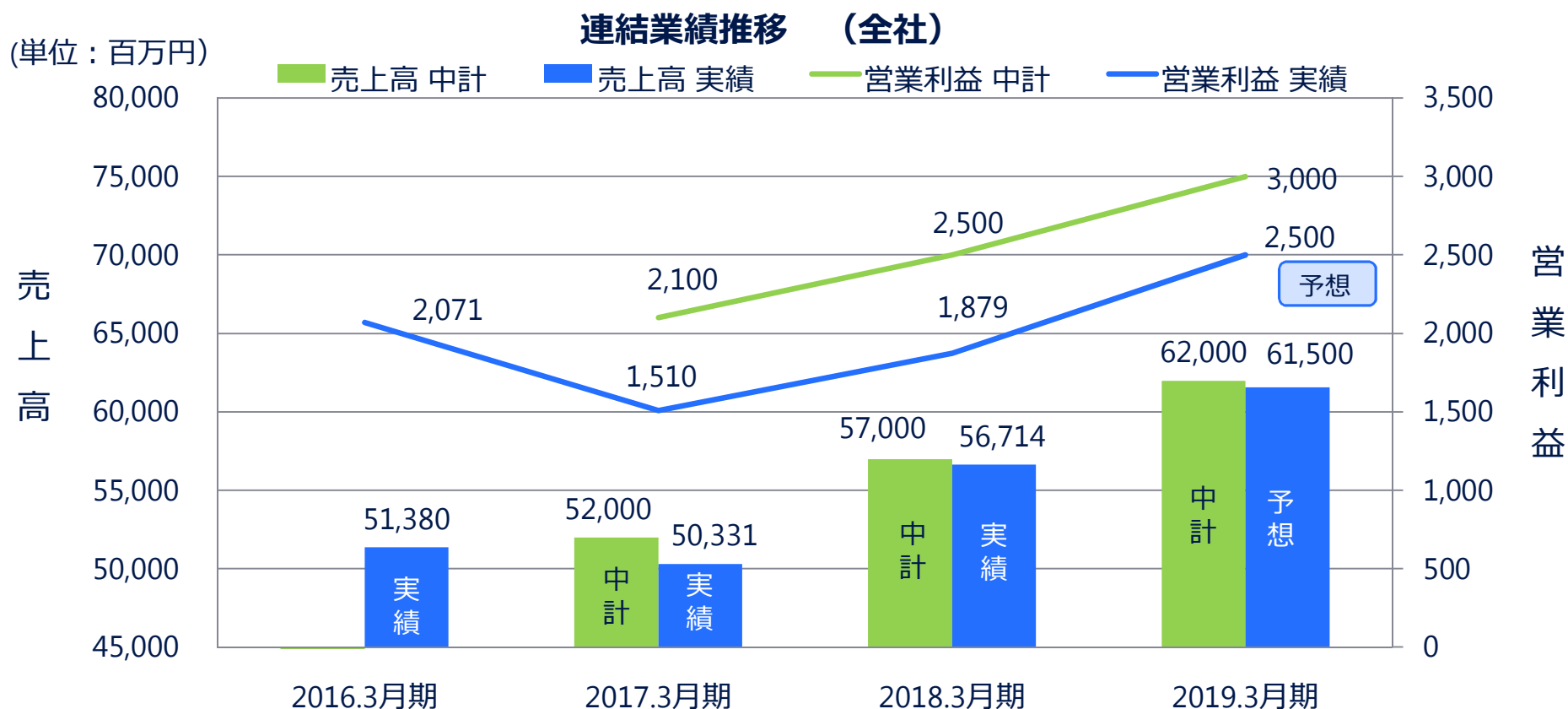
前第2四半期から7カ月分を連結、当期は通年寄与

(株)柴田工業：

当第3四半期末に連結開始、当期は3ヶ月分が寄与

・為替差損益が前期比で大幅に改善したものの、本社ビルの譲渡に伴う特別損失（4億67百万円）、および繰延税金資産の取り崩しに伴う法人税等調整額（3億80百万円）を計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純利益は減益となった。

2. 中期経営計画の進捗状況

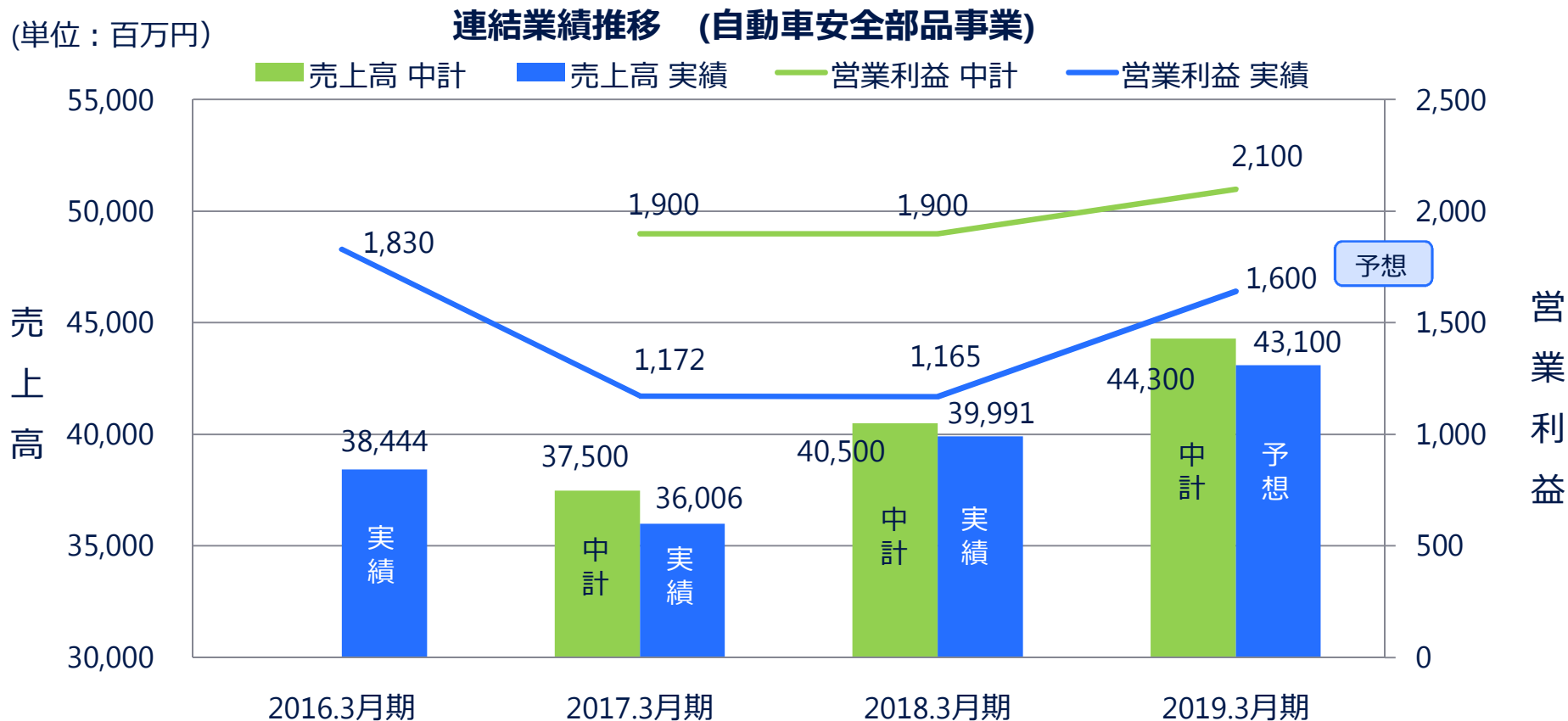


2018年3月期（第118期）実績 中計目標との差 売上高 ▲2.8億円、営業利益 ▲6.2億円

✓ 中計目標比で減収減益となったのは、自動車安全部品事業における事業拡大のペースが、緩やかであったため。

2019年3月期（第119期）予想 中計目標との差 売上高 ▲5.0億円、営業利益 ▲5.0億円

✓ 中計目標比で減収減益となるのは、自動車安全部品事業における事業拡大のペースが中計を下回る見込みのため。同事業については、各種収益向上施策に取り組むとともに、需要拡大が見込まれる国内外において設備投資を積極的に進めて、中期計画との乖離縮小に努める。



2018年3月期 (第118期) 実績 中計目標との差 売上高 ▲5.0 億円、営業利益 ▲7.3 億円

✓ メキシコの現地法人等、海外の受注が中計よりも減少したため、中計目標比で減収減益となる。

2019年3月期 (第119期) 予想 中計目標との差 売上高 ▲12.0 億円、営業利益 ▲5.0 億円

✓ 中国、メキシコの現地法人等において、中計策定時と比較して事業環境が厳しさを増しており、中計目標比では減収減益となる。2020年3月期 (第120期) には現在の中計最終年度の数値目標達成を目指す。

中計施策の進捗状況（自動車安全部品事業）

中計施策

1. グローバル生産販売体制の確立
2. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

1. グローバル生産販売体制

- ① 昨年6月に「欧州事務所」を新設。欧州向け拡販に向け、取引先との関係強化や新規取引開拓に向けた情報収集を進めている。
- ② 当社メキシコ現地法人第二工場は昨年11月に操業開始。北米向けの増産へ対応するとともに、競争力を高めて受注拡大を図る。
- ③ 芦森工業山口株式会社で新たに第三工場を建設中。稼働開始は2018年8月を予定。主要顧客向けの新規受注を獲得済みであり、生産規模拡大による生産性向上および内製化・F A化の推進で収益力向上を目指す。

中計施策の進捗状況（自動車安全部品事業）

中計施策

1. グローバル生産販売体制の確立
2. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

2. 次世代商品の開発強化

カーメーカーとの協働による新評価基準対応レストレイント商品を開発。

- ・ 頭部傷害値の新評価基準(BriC)に対応した斜め衝突(Oblique Impact)対応デバイス
- ・ 胸部傷害値低減デバイス

(単位：百万円)

連結業績推移（機能製品事業）

**2018年3月期（第118期）実績**

中計目標との差 売上高 +2.1 億円、営業利益 +1.0 億円

- ✓ 好調なパルテム関連とオールセーフ(株)の通年寄与が、防災・産業資材関連の不振をカバーし、中計目標を上回った。

2019年3月期（第119期）予想

中計目標との差 売上高 +7.0 億円、営業利益 +0.5 億円

- ✓ パルテム関連・オールセーフ(株)の好調継続、消防用ホースの販売増等により、中計目標を上回る見込み（前期比でも増収増益）。

中計施策

1. オールセーフ(株)との連携による収益拡大
2. 海外拡販による事業拡大
3. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

1. オールセーフ(株)との連携による収益拡大

各種取組みによりシナジー効果を追求した。

- ・ 物流関連商品（NAタイトナー・ライトスライダ等）より着手
- ・ 生産拠点の統合（オールセーフの東北工場・九州小城工場へ）
- ・ 外注品のグループ内内製化（同上）

中計施策

1. オールセーフ(株)との連携による収益拡大
2. 海外拡販による事業拡大
3. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

2. 海外拡販による事業拡大

機能製品海外戦略会議による業務推進。

- ・ 重点地域（ASEAN+周辺国）におけるマーケット調査、顧客訪問、展示会出展、視察を実施し、一定の成果獲得
- ・ 国内外協力体制の構築について、有力な協力先との関係強化
- ・ オールセーフ(株)との連携による海外展開の進捗

中計施策

1. オールセーフ(株)との連携による収益拡大
2. 海外拡販による事業拡大
3. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

3. 次世代商品の開発強化

【パルテム】

- ・パルテム・フローリング工法を新分野に応用展開中

【防災】

- ・災害復旧用送排水システム商品の拡充

【産業資材】

- ・高所作業用墜落阻止器具のラインナップ開発着手
- ・タイミングベルト用帆布の適用範囲拡大に取組中

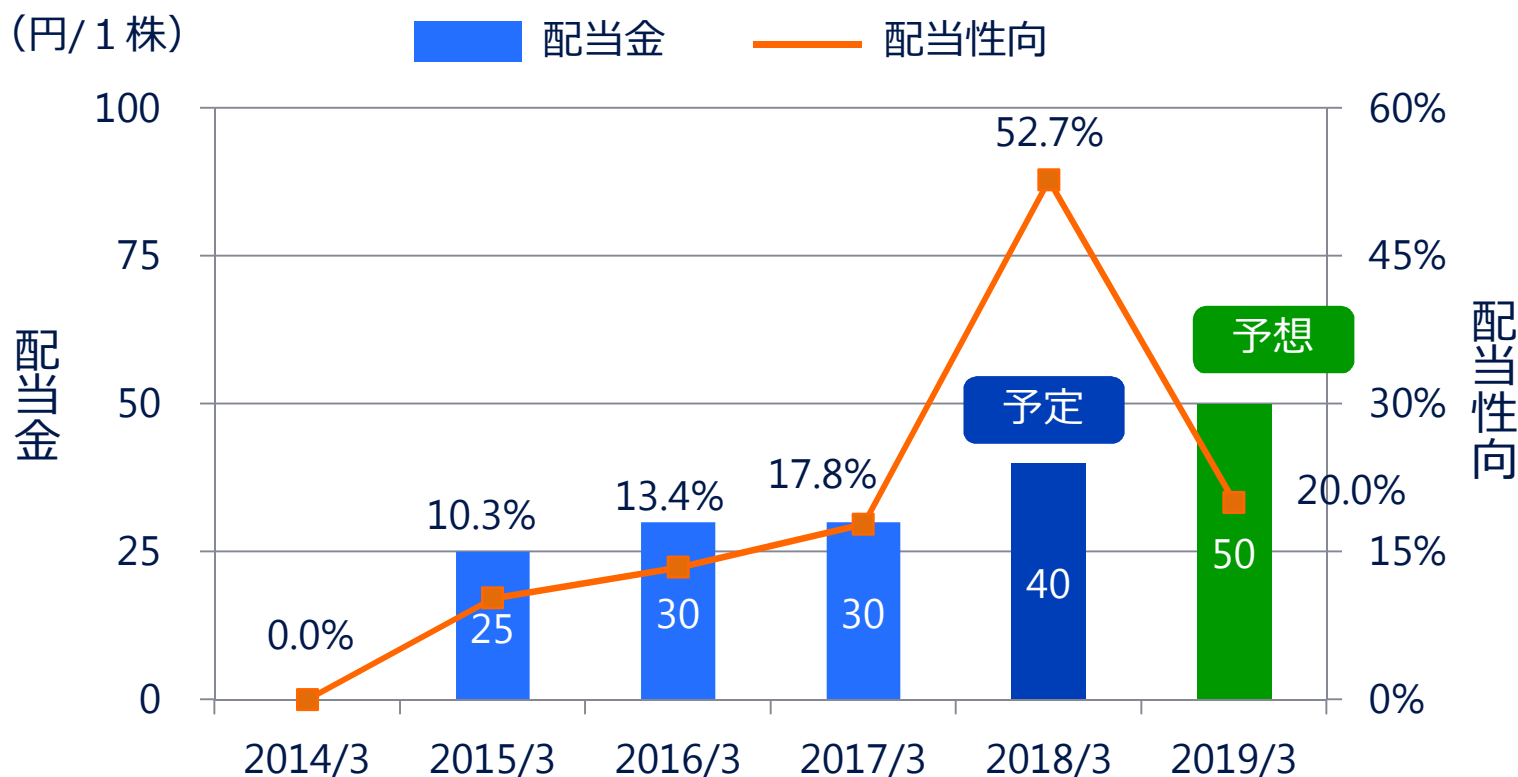
3. 資本政策・株主還元方針

資本政策については、成長投資と安定的な株主還元をバランスよく配することを志向する。

成長投資については、中長期的な企業価値向上に向け、研究開発、設備投資、人材投資、M&Aなどを積極的に実行していく。

株主還元については、利益水準に応じて配当水準を引き上げていくことを基本方針とする。

2018年3月期は1株当たり40円を予定
2019年3月期は1株当たり50円の見込



	2014年3月期 実績	2015年3月期 実績	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	2018年3月期 予定	2019年3月期 見込
配当性向 (連結)	0.0%	10.3%	13.4%	17.8%	52.7%	20.0%
配当金 (円/1株) *	0	25	30	30	40	50

* 1株当たり配当金は株式併合後のベースで記載

【株式併合】

2017年10月1日をもって、
単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、
10株につき1株の割合で株式併合を実施した。

【自己株式の取得】

株主への利益還元の上昇を図るとともに、
経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、
市場買付により自己株式を取得した。

取得した株式の種類： 普通株式

取得した株式の総数： 50,000株

(自己株式を除く発行済株式総数の0.83%)

取得価格の総額： 160,553,000円

取得期間： 2017年11月10日～17日

4. トピックス・参考資料

当社メキシコ現地法人は、欧米向け拡販による事業規模拡大を図るため、新たに第二工場を建設し、2017年11月より操業開始いたしました。

ASHIMORI INDUSTRIA de MEXICO, S.A. de C.V.第二工場の概要

- | | |
|----------|---|
| (1) 所在地 | メキシコ合衆国グアナファト州
(ASHIMORI INDUSTRIA de MEXICO, S.A. de C.V.敷地内) |
| (2) 事業内容 | 自動車用シートベルト・エアバッグ・内装品等の製造・販売 |
| (3) 総投資額 | 約20百万USドル(約22億円) |
| (4) 建屋面積 | 約6,300㎡ |
| (5) 稼働開始 | 2017年11月
(工場増設に伴い、生産能力は従来比約3倍へ拡大) |

第二工場外観



今後も受注拡大が見込まれる自動車用シートベルト・エアバッグ・内装品等の生産体制増強のために、現在、芦森工業山口株式会社に第三工場を建設中です。

工場増設の概要

- | | | | | | | | |
|-----|---|---|---|----------------|-----------------------------|---|----------------------|
| (1) | 所 | 在 | 地 | 山口県山口市佐山3番地105 | | | |
| (2) | 事 | 業 | 内 | 容 | 自動車用シートベルト・エアバッグ・内装品等の製造・販売 | | |
| (3) | 総 | 投 | 資 | 額 | 約19億円 | | |
| (4) | 敷 | 地 | 面 | 積 | 約24,500m ² | | |
| (5) | 建 | 屋 | 増 | 設 | 面 | 積 | 約4,800m ² |
| (6) | 稼 | 働 | 開 | 始 | 2018年8月 | | |
- (工場増設に伴い、生産能力は従来比約2倍へ拡大)

完成イメージ



建設状況

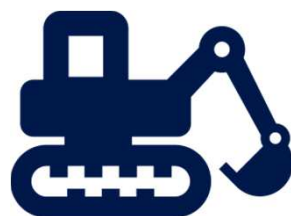


当社は、株式会社柴田工業の全株式を取得し、同社を連結子会社といたしました。これにより、当社機能製品事業にて製造販売している上下水道を中心とする管更生材料を使用した管更生工事の体制強化を図りました。

株式会社柴田工業の概要

(1) 商号	株式会社柴田工業
(2) 代表者	柴田 弘
(3) 本社所在地	東京都立川市幸町2-52-7
(4) 設立年月日	1991年10月1日
(5) 主な事業内容	水道施設工事業および土木工事業
(6) 資本金	20百万円
(7) 売上高	700百万円（2017年5月期）

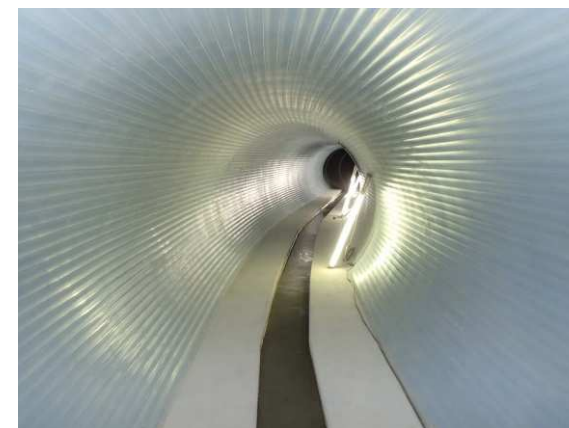
柴田工業の土木工事



体制強化



パルテム管更生工事



当社は総合FRPメーカーであるヤシロコンポジット株式会社の株式を一部取得し（48.2%）、両社の関係をより強固にして業務提携を進めることとなりました。

これにより機能製品事業本部の国内生産体制の強化と、同社の有する技術を用いて商品展開の拡大による事業の広域化等、企業価値の向上を進めてまいります。

ヤシロコンポジット株式会社の概要

(1) 商	号	ヤシロコンポジット株式会社
(2) 代	表	者 橋本 良明
(3) 本	社	所 在 地 兵庫県加東市喜田506-1
(4) 設	立	年 月 日 1965年8月2日
(5) 主	な	事 業 内 容 複合材料製品の製造販売と製造加工請負
(6) 資	本	金 232百万円
(7) 売	上	高 2,572百万円（2017年3月期）



製品のご紹介 (自動車安全部品事業)



シートベルト



電動シェード



エアバッグ



セパレーションネット

事業内容

自動車用シートベルト、エアバッグ、ステアリングホイールおよび内装品などの製造・販売

製品のご紹介（機能製品事業）



パルテム・フローリング工法
（管路更生工法）

ジェットポータブルコンプレッサー



事業内容

管路更生工法「パルテム」用材料・資機材および土木資材などの製造・販売ならびに管路更生工事、
消防用ホース、産業土木用ホースおよび防災関連資機材の製造・販売、
産業用繊維資材（合繊ロープ・帆布など）、物流省力化システム関連、および墜落阻止器具



結露防止シート
結露ブロック

芦森グループ

社是・M V V（Mission・Vision・Value）について

- 社是**
1. 信用を重んじ、堅実を旨とする
 2. 人の和と開かれた心で活力ある企業を築く
 3. 創意を生かし、社業を通じて社会に貢献する

Mission “安全・安心・快適”の提供で、社会に貢献する

Vision “安全・リニューアル”分野で技術をリードする
世界に通じる“Small but Excellent Company”

Value “信用”
“グッド・コミュニケーション”
“チャレンジ精神”



ASHIMORI
POWERED BY
INNOVATION

本資料中の業績予想および見込みについての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

IRに関するお問い合わせ先

芦森工業株式会社 広報・IR室

TEL : 06-6105-1680

MAIL : ir_madoguchi@ashimori.co.jp

HP : <http://www.ashimori.co.jp>